

3月11日に発生した東日本大震災において、被災されました皆様におかれましては、心からお見舞いを申し上げますと共に、一日も早い復興を深く祈念致します。

第4回信州なががわハーフマラソンにエントリーされた皆様へ

5月5日(木)に開催を予定しておりました第4回信州なががわハーフマラソンですが、実行委員会での協議の結果、今回は開催中止と決定させていただきました。

大会を楽しみにしていただき、当日に向けて日々トレーニングに励まれてきた皆様には大きなご迷惑をおかけし、また大会主催者としての大きな信用失墜に至りましたことを心より深くお詫び申し上げます。本当に申し訳ございませんでした。

いまだ震災の全容が明らかにはならず、物資の不足や原発の問題、頻発する余震など、日本中がまだまだ予断を許さない状況にある中で、当大会ではその開催の是非について、実行委員会を開き真剣な話し合いを重ねて参りました。

エントリーをいただいている皆様からも賛否両論の様々なご意見を頂戴し、決定を下すには本当に苦慮するところでしたが、最終的に、今回の開催は見合わせるという結論に至りました。

お預かりしている参加料の取り扱いを含めた今後の対応について、実行委員会としては皆様にその詳細をお知らせする重大な責任があると捉えております。

私達は、皆様一人ひとりの個別なご意見を尊重させていただくのが最善と考え、今回の中止についてのお詫びと共に、できる限りの私達の気持ちを今回正直に伝えさせていただき、皆様一人ひとりのご意見を聞かせていただくことに致しました。

拙い説明で誠に恐縮ではございますが、ご一読の上、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

1. 大会主催者としての私達のこと

まず、「信州なががわハーフマラソン実行委員会」の形について少し説明させていただきます。

「信州ながわハーフマラソン」は、中川村という自治体の主催するイベントではなく、地元のランニング愛好家を中心となって組織されている実行委員会です。(名簿上は 30 名ほどいますが、実働部隊は約半数程度です)

事務局は実行委員内のメンバーが勤務する職場内に設置し、本業の合間に皆様からのお問合せに対応をしています。公式サイトも素人作製のものです。

村の税金を使ってすべてが企画されるわけではなく、参加者からの申込料と、地元の個人企業や個人協賛を募ってお金を集め、さらにそれ以上に米や野菜や果物など、村民の善意で無償提供していただいて大会を作っています。

2. 今回、大会を中止とした理由

今回の震災を受け、開催の可否を話し合ったわけですが、被災地の人たちをどれほど身近な隣人として捉えられるか、という点を深く話し合いました。

実行委員会の中には隣町の消防署に勤務する者もあり、要請を受けて現地へ救助活動に実際に赴き、テレビには絶対映らない生の惨状を実行委員会で伝えてくれました。

快くリンゴや米を大会に無償提供してくれていた農家の皆さんも、今回はとばかりに被災地へと物資を送ったそうです。

うまく言えないのですが、今回の中止は、人の真似やムードで自粛ということではなく、震災は実行委員や中川村民にとっても、「大きな悲しみ」である、ということが一番の大きな原因となっています。

大会を開催するには 400 名ほどの村内ボランティアが必要となります。村の主催であればトップの指示で簡単に人が集まるところを、毎年本当に直前まで私達は奔走し、ギリギリのタイミングで全村民の 1 割に近い皆さんに動員をお願いしています。村民の皆さんにも、今回本当にさまざまな意見があり、たとえ 10 数人の皆さんが「今年は協力を控えたい」と言ってももう大会が成立してこないのです。

さらに、震災を受け、当初無償提供のお約束をいただいていた養命酒製造様からは「養命水」の供給は大会に間に合わないだろうとご連絡をいただき、レンタル業者様からは仮設トイレや無線も今後しばらく被災地へ優先的に回されるだろうと連絡をいただきました。

ガソリン価格の高騰や高速道路料金の先行き不安等もあり、来場される皆様への大きなご負担となるのではと懸念もされました。

確かにじっとしては何も始まりません。経済の落ち込みという視点も充分理解できます。しかし私たち中川村民にとっては、まだ、何かイベントを企画するほどには悲しみが回復していないというのが現状であり、大会を運営するにあたっての資材手配にも大きな影響が出るのが予想される現実からは、開催は無理であると判断せざるをえない状況となりました。

大会を中止し、マラソン大会に集まる予定であったさまざまな物資の転送も、一括の配送で大きな被災地支援になるという点で意義のあることであると判断させていただいた次第です。

3. 参加料の扱いについて

皆様からお預かりした参加料につきましては、実行委員会の希望としては、既に開催準備のために使ってしまった経費を引かせていただき、残金については皆様への「返金」あるいは被災地への「義援金」として充てさせていただきたいと考えております。

中止にさせていただいたことで、参加料の扱いを巡っては、多くの皆様より様々なご意見を頂戴致しました。中止の原因が震災に起因するものであったとしても、本来の目的以外のことにお金を使うという決定を実行委員会の独善的な判断で行うことは許されません。当大会では、皆様に大会の経費の概略を説明させていただいた上で、皆様の善意とご理解を尊重しながら、「返金」あるいは「義援金」という対応を、全ての皆様に個別に対応させていただこうと考えます。

マラソン大会の運営方法は、大会によって様々だとは思いますが、信州ながかわハーフマラソンの場合は、支出の内訳としては、

- チラシやポスターや当日プログラム等の印刷代
- 封筒や各種送料
- 参加賞
- ゼッケン
- 入賞トロフィ
- 記録計測委託料

- 仮設トイレやシャトルバスなどのレンタル代
- 給水所
- 会場やコースを飾るプランターの花
- のぼり旗やテントやカラーコーンなどの備品補充

などが主なものです。

この中で、今回すでにお金を使ってしまったものは、

- チラシやポスター等の印刷代
- 封筒や各種送料
- 参加賞
- 会場やコースを飾るプランターの花
- のぼり旗やテントやカラーコーンなどの備品補充

などで、エントリーいただいた皆様の人数で割るとだいたい一人あたり 2000 円ほどのお金を使ってしまっていることとなります。

これに記録計測やゼッケンや給水の準備などを加え、企業や個人の協賛金に頼りながら、参加者1 人あたり 4000 円～4500 円の経費がかかることになっています。ここに無償提供していただいた膨大な農産物が加わって、皆様への「おもてなし」が実現しています。

今回中止ということから、企業協賛や個人協賛はなくなり、純粹に皆様から集めたお金のみでの賄いを余儀なくされています。

「参加料を義援金にしたい」と言ってみても、実は驚くほどのお金を送ることはすでにできない状態でもあります。

参加料は種目によって異なっています。上記の会計的な面のご理解をいただき、直ちに皆様への「返金」あるいは「義援金」として募金することになると、以下のようになります。

- ハーフマラソンの部・・・1500 円の返金あるいは 1500 円の義援金が可能です。
- 3km・5km の高校生以上の部・・・1000 円の返金あるいは 1000 円の義援金が可能です。
- 3km・5km の中学生以下の部とペアの部・・・申し訳ございませんが、返金できるお金がありません

4. 別イベントの開催について（強制ではありません）

ここで、

私達は、今回の震災を受け、被災地の皆様の心情を強く思うと同時に、実行委員会としてはエントリーいただいた皆様の気持ちも同じくらい大切にしたいと考えます。メイン会場にてお目にかかることはできませんが、「返金」または「義援金」だけで今回の大会中止を片付けてしまうのではなく、何らかの形で「心」をひとつにすることはできないかと、以下の簡単なイベントを考案させていただきました。

イベント名

「信州なかがわハーフマラソン～みんなで気持ちを届けよう～」

●趣旨

5月5日に中川村のマラソン会場に集まることはなくても、エントリーされた皆様の心をつにし、被災地へ気持ちを向けて全国各地で同日に走ることで、復興支援の応援メッセージを送ろうという意図のもとに企画されたものです。

●内容

- ① 5月5日に、皆さんにはご自宅周辺で構いませんので、自分の可能な限り、ランニングをしていただきます。同封のミニゼッケンをどこか身につけてください。
- ② その日何km走ったかを、ハガキに明記の上、マラソン事務局へと返送していただきます。
- ③ 大会事務局ではその距離を集計し、皆さんで走った合計走行距離が、中川村から被災地までの距離に届くことを目指します。
- ④ 「信州なかがわハーフマラソン～みんなで気持ちを届けよう～」終了後、皆さんの気持ちを乗せて、すでに開催を目指してかかった費用を除いて被災地への義援金として募金をさせていただきます。
- ⑤ 走行距離は自己申告ですが、マラソン公式サイトへ皆さんのご芳名と合わせて掲載させていただき、今回準備していたフィニッシャーズタオルを発送させていただきます。（残りは被災地へ送ります）

5. お手数ですが、皆さんに選んでいただきたいこと

上記を踏まえて、皆様には以下より選択をしていただき、今回同封のハガキに必要事項を明記の上、それぞれの期限までに投函をお願いしたいと思います。

●ハーフマラソンの部にエントリーされた方

- ①1500 円の返金を希望する
⇒郵便為替にて返金致します。
- ②1500 円からタオルの送料(800 円)を引いた 700 円の返金を希望する
⇒郵便為替にて返金し、参加賞のタオルを発送致します。
- ③イベントに参加し、1500 円からタオルの送料(800 円)を引いた 700 円を義援金
⇒お名前と走った距離を公式サイトに掲載し、タオルを発送致します。
- ④イベントに参加し、1500 円を義援金へ
⇒お名前と走った距離を公式サイトに掲載し、タオルは被災地へ送ります。
- ⑤ハガキの返送なし
⇒1500 円とタオルは被災地へ送らせていただきます。

●3km・5km の高校生以上の部にエントリーされた方

- ①1000 円の返金を希望する
⇒郵便為替にて返金致します。
- ②1000 円からタオルの送料(800 円)を引いた 200 円の返金を希望する
⇒郵便為替にて返金し、参加賞のタオルを発送致します。
- ③イベントに参加し、1000 円からタオルの送料(800 円)を引いた 200 円を義援金
⇒お名前と走った距離を公式サイトに掲載し、タオルを発送致します。
- ④イベントに参加し、1000 円を義援金へ
⇒お名前と走った距離を公式サイトに掲載し、タオルは被災地へ送ります。
- ⑤ハガキの返送なし
⇒1000 円とタオルは被災地へ送らせていただきます。

●3km・5km の中学生以下の部とペアの部にエントリーされた方

- ①イベントに参加する。
⇒お名前と走った距離を公式サイトに掲載し、タオルを発送致します。
(タオルの送料は実行委員会メンバーで個人負担します。)
- ②イベントに参加し、タオルは被災地へ
⇒お名前と走った距離を公式サイトに掲載し、タオルは被災地へ送ります。
- ③ハガキの返送なし
⇒タオルは被災地へ送らせていただきます。

6. 最後に

大変長くなってしまいましたが、いかなる理由であっても、開催中止という結果は皆様への裏切りであることは充分認めます。お寄せいただいた様々なご意見は真摯に受け止めさせていただきます。

しかし、中止の原因として誤解を招く恐れがあるのですが、今回は 「参加料を義援金として送ることを第一目的に中止したのでは決していない」 ということをご理解いただけたらと思います。

中川村に住む私たち自身の「心」をご理解いただき、エントリーいただいた皆様の善意を尊重しながら、皆様とのご縁を大切にして、大会はできなくても皆様とも「心」を一つにしたいという思いからの判断です。

今回のことで、実行委員会内でもさまざまな意見が出され、また事務局へもさまざまなご意見が寄せられています。

現在も、継続して実行委員会は開催されていますが、どのような形になるにせよ、そこで実行委員会として考えたことなども、今後できる限り皆様へお伝えしていきたいと思っています。

今回、東北地方からも多くの皆様よりエントリーをいただきました。被災地にも、走ることを趣味とされ、走ることを愛する「仲間」がたくさんいらっしゃると思います。一日も早く復興が進み、少しずつでも走る余裕ができる日が迎えられることを、私達は心より祈念してやみません。

現在実行委員会メンバーでも、近く実際に被災地へ赴き、自分たちにできる人的なお手伝いを少しでもさせていただこうと、計画を立てているところでございます。

今回の開催中止につきましては、本当に申し訳ございませんでした。

来年は第5回大会となります。節目の大会としてぜひ盛大に開催し、皆様にお目にかかれる喜びをかみしめつつ、日本中に元気を発信できる大会となるよう工夫と努力重ねていきたいと思っています。

今後とも、信州なががわハーフマラソンを是非よろしく願い致します。